

『百年史』編纂事業へ向けての研究活動

大東文化歴史資料館では、2013年9月20日に迎える本学創立90周年の対応として、現在、90周年記念ブックレット『大東文化大学の歩んできた道』（仮題）の制作に取り組んでいます。これを終えると、いよいよ百年史編纂に向けた資料の収集、調査、研究を本格的に進めていくことになります。

このうち、研究活動の領域について見ていくとき、本歴史資料館運営委員会においては、かねてより、百年史編纂の本学にとっての固有の意義として、本学創設時の指導者たちが日本近代史の中で演じた役割を（批判的に）解明することを通して、建学の精神を再確認することが社会に対する責務であると提起してまいりました。そのためにも、「創設時の指導者研究」や「建学の精神研究」を推進するための共同研究が必要不可欠なものとなっております。

本歴史資料館では、100周年の年史編纂に向けた体制強化の一環として、研究員の委嘱に関する規定を整備する「大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）規程」の改正を行い、本年4月1日をもって施行されました。共同研究には、専任研究員に加えて、学内外の研究者の協力を仰がねばなりません。そのために、学内に本務をもつ兼担研究員と、学外の研究者である兼任研究員の委嘱手続きを行う場合の規程が具体的に整備されました。

そこで、本歴史資料館は、百年史編纂業務へ向けての研究計画を早急に確立し、兼担・兼任研究員を募って共同研究班を起動させ、併せて、百年史編纂をスムーズに実行していくために、『大東文化大学百年史紀要』の刊行を目指すことになりました。

学内外で、それぞれ本務をもって活躍されている先生方には、大変な労務をお掛けすることになりますが、その専門性をご提供いただくことを念願し、ここに共同研究への参加を仰ぐ次第であります。

（東洋研究所教授・歴史資料館運営委員 兵頭 徹）

* 所蔵資料紹介 *

北海道のプロバスケットチーム「Rera Kamuy Hokkaido（レラカムイ北海道）」（現在は「Levanga Hokkaido（レバンガ北海道）」として活動中）の公式ジャージ。

大東文化大学は、2007-08シーズンよりJBLに所属し活動を開始した「レラカムイ北海道」のスポンサーをつとめ、大東出身の選手が入団していることもあって応援してきました。公式ジャージには大きく「大東文化大学」とスポンサー名が入っています。残念ながらレラカムイ北海道は2010-11シーズンをもって活動休止となり、2011-12シーズンより「レバンガ北海道」と名称を変えて生まれ変わったため不要となったジャージを、中村年春スポーツ振興センター所長（社会経済学科教授、右下写真）を通じて受贈しました。

白色の公式ジャージ上下を寄贈くださった折茂武彦氏はレバンガ北海道の創設者で選手兼オーナー、紺色のジャージを寄贈くださった阿部友和氏は大東出身でレバンガ北海道所属選手として現在も活躍しています。

